

特集：「日本でいちばん大切にしたい会社」 にとっての「見える化」

第4章

多摩草むらの会の「見える化」



志倉 康之

東京都中小企業診断士協会城北支部

1. 精神障がい者の自立支援事業を展開

(1) 法人概要

東京多摩地区において精神障がい者の支援事業を展開する NPO 法人「多摩草むらの会」は、「心の病を持つ精神障がい者が安心して自立した生活ができる社会の実現」を目指し、多種多様な事業を展開している法人組織です。

2016年1月現在、展開中の事業は自然環境で農業を使用しない生産物を作る「夢畑」、商店街の空き店舗を活用し、誰でも自由に参加できるパソコン教室「夢像」、生地づくりからデザイン縫製まで布製品や洋服の創作と販売を行う「夢うさぎ」など、多摩地域を中心に12を超える規模になっています。

NPO 法人多摩草むらの会の運営事業一覧

	名称	業態
1	待夢	相談支援センター
2	寒天茶房 遊夢	ギャラリー喫茶
3	まんじゅう屋 遊夢	和菓子製造・販売
4	夢来	就労体験
5	ゆめーぬ	カフェ
6	夢畑	農産物栽培・販売
7	草夢	清掃
8	夢像	パソコン教室
9	遊夢 松が谷店	弁当販売
10	畑 de きっちゃん	採れたて野菜レストラン
11	夢うさぎ	布製品製作・販売
12	グループホーム	生活支援

同法人の最大の特徴は、これらの事業が、「精神障がい者として認定されている方を中心に運営されている点」にあります。

現在、同法人は380名のメンバー（精神障がい者として就労している方）と、150名のスタッフ（メンバーを支える方）を合わせて530名を雇用しています。NPO 法人としては、非常に大規模な組織であると言えます。

(2) 沿革

組織の発足は、現代表である風間美代子理事長のご息子が、統合失調症を発症したことに遡ります。

当初は、自宅近くのデイケアへ通所していたものの、生活や就労の課題を抱え、どうすることもできない困難な状況の中で、「障がい者をいかに閉じ込めるか、いかに外に出さないか」という日本特有の偏見が強い現状に、風間理事長は「強い怒り」を感じました。

そして、「息子に何とか人生を楽しんでほしい」という思いから、自宅を開放し、同じ悩みを持つ家族同士が集まり相談する「親の会」を設立しました。

その後、精神障がい者の自立を組織的に支援することを目的として1997年、任意団体「草むらの会」を発足。2004年には NPO 法人として認可され、現在の「多摩草むらの会」となりました。

(3) 第2回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞審査委員会特別賞受賞

同法人は、2012年に第2回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞審査委員会特別賞を受賞しました。株式会社が受賞対象となるのが通例となっている同賞において、NPO法人の受賞は非常に珍しい事例として知られています。

受賞の要因について、風間理事長は「我々の組織が、中高年やニートと呼ばれる社会的弱者をスタッフとして積極的に受け入れている点が評価されたのではないかと考えています。

このコメントのとおり、同法人では精神障がい者であるメンバーを支える役割のスタッフには、中高年の方や、自身が過去にニートであった方、また過去に自身が精神障がいを発症し、メンバーとして同法人にかかわっていた方も多く在籍しています。

「精神障がいの苦しみを克服した自分が、現在、昔の自分と同様に同じ病気に苦しんでいる仲間を支える」

これは精神障がいに苦しんでいる方にとって、非常に喜ばれる仕組みになっていると思います。

(4) 多種多様なメンバーのマネジメント

合計で530名を数えるスタッフやメンバーをマネジメントすることは、困難を極めます。その方法について、風間理事長は「ある意味、彼らを特別扱いしないことが重要」との考えを持っています。

前述のとおり、精神障がい者を持つ家族は世間から彼らを隠そうとする傾向があります。そして、彼らを保護しようとするあまり、「勤務時間」、「担当する仕事」などについて制限を設けてしまっている方が多い現状があります。

風間理事長は、「そういった精神障がい者に対する昔ながらの発想が、障がい者のプライドを下げ、生きづらくしている要因である」と考えています。

同法人がもっとも大切にしている考えは、「福祉は決して特別ではない」ということです。たとえば、同法人は多摩センターに採れた野菜料理を提供する「畑 de きっちゃん」というレストランを出店していますが、スタッフに求めているのは、一般企業と同様に売上高・利益高です。

そのために必要なことに関しては、妥協を一切許さない方針を貫かれています。その裏には、「健常者と同等に扱うことが彼らに対する礼儀」という強い信念があります。

また、スタッフに対して「定年なし」、「出戻り歓迎」を推奨している点も特筆すべき点であると思います。「働きたいのであれば、いつまででも働いてよい」、「一度退職したものの、また一緒に働きたいなら、いつでも歓迎」という方針は、同法人の一緒に働く仲間に対する姿勢を表す好例です。



「畑 de きっちゃん」

2. 同法人の「見える化」の事例

同法人の経営を、「メンバーの外部への見える化」、「会社の見える化」、「社内での見える化」の観点からまとめました。

(1) 「メンバーの外部への見える化」

偏見を持たれることが多い精神障がい者だからこそ、同法人は彼らの外部への「見える化」に力を入れています。以下に代表的な取り組み例を、3項目記載します。

- ① 実際に人と触れ合う BtoC 事業の展開
- ② 地域イベントへの積極的な参加
- ③ 組織紹介ムービーの製作

「レストラン」、「お弁当販売」、「パソコン教室」、「衣類販売」などに代表される BtoC 事業は、精神障がいを持つメンバーが直接接客を行う事業であり、そこには当然、一定レベルのコミュニケーションが必要とされます。

同法人はあえて同事業を積極的に展開することで、彼らに引きこもるのではなく、人前に出ることで自信をつけてほしいとの願いを込めています。



農園運営事業「夢畑」

同様に、地域のお祭りやデパートでの催事イベントなどに積極的に参加することも、同法人が大切にしていることです。

風間理事長は、「いまは、私が言わなくてもスタッフが自分で積極的に外に出て行くようになった」と話しています。このことは、同法人が掲げる「地域住民として同様に生きる」という方針が社内に浸透していることを意味していると思います。

さらに、外部に組織の現状を幅広く知ってもらうための取組みとして、同法人の紹介ムービーの製作・配信があります。同ムービーは社内メンバーが製作しており、会の紹介、風間理事長と有志メンバーのメッセージにアニメーションを交えた、まさに同法人を幅広く世の中に告知するための試みです。現在、同法人のホームページにて視聴が可能です。

世間から隠すことなく、むしろ「積極的に彼らの存在を知ってほしい」。同法人が大切にしている取組みです。

(2) 「会社の見える化」

同法人のホームページを確認すると、財務状況が「決算資料」、「助成報告」として事細かに掲載されていることに驚きます。

平成24～26年の以下4項目の実績が掲載されています。

- ①活動計算書
- ②貸借対照表
- ③財産目録
- ④助成報告

たとえば、「活動計算書」はいわゆる一般企業の損益計算書に近い形式のもので、平成26年の事業収入として3.7億円の売上が発生していることを読み取ることができます。

ここでは、同法人の「環境が整いさえすれば、精神障がい者であっても能力を発揮し、売上を稼ぐことができる。働いて給料を受け取ることで、1人暮らしはもちろん、結婚も夢ではない」ということをメンバーに伝えるメッセージの役割を果たしていると言えます。

事業収益をメンバーに還元できる徹底的な仕組みづくりに注力し、実現している同法人の姿勢は、従来の福祉法人では考えられなかったものです。

(3) 「社内での見える化」

そして、同法人が力を入れている取組みとして、社内でのメンバー同士の「見える化」があります。同法人が社内に対して実施している施策は、以下のとおりです。

- ①積極的なクラブ活動
- ②草むら通信の発行
- ③研修旅行

現在、クラブ活動としてスポーツ（テニス・太極拳・ヨガなど）、文化（美術・音楽・バンド・イラストなど）が積極的に開催されており、メンバー間のコミュニケーションを深める役割を担っています。その様子は、月に1回発行される「草むら通信」で紹介されることになっています。

また、年に1回は研修旅行が実施され、同法人最大のイベントと位置づけられています。



多摩草むらの会の集合写真

3. 今後の展開

風間理事長は、「今後も障がい者の自立支援のために、孤立しない仕組みづくりに取り組んでいきたい」と話しています。

具体的な取組みとしては、農業法人の立ち上げを視野に入れています。また、今後は一般企業との連携も深めていきたいと考えています。「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞での受賞を契機に、福祉関連以外の関係者からも取材や連携の話が来るようになりました。

今後は、福祉業界に閉じることなく、一般企業と連携することで、同法人だからこそ提供できる価値の創出に注力していきたいと考えています。

4. おわりに

今回、誌面を通してもっともお伝えしたいことは、「組織にはさまざまな形がある」ことです。

日本経済が伸び悩み、IT化が進み、仕事の効率化が追求される中、企業に所属する社員のプレッシャーは高くなるばかりです。現在、統合失調症は有病率が1%、つまり100人に1人が発症している、とても身近な病気です。年間の自殺者数も2000年以降、高止まりしています。

そんな彼らに、同法人は「もっと楽に生きてよい。仕事をしたいなら、すればよい」と

いう「草むら」を用意しています。

同法人のような組織が、いま以上に世の中に認知されて応援されることが、今後、現在以上の競争激化が確実視されている日本経済にとって、とても大切なことであると感じました。

組織概要

法人名：NPO 法人多摩草むらの会

理事長：風間 美代子

事業：農業、飲食店、弁当惣菜の製造販売、など

就労者：530名

うち

メンバー380名

スタッフ150名

所在地：〒206-0034

東京都多摩市鶴牧1-4-10

アネックス鶴牧101

H P : <http://kusamura.org>

※データはすべて2016年1月現在

志倉 康之

(しくら やすゆき)

カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社における新規事業立上げおよび事業責任者としての経験と、中小企業診断士としての活動の中で計1,500名ほどの社長たちと出会う中、中小企業の廃業率の高さに危機感を抱くようになり、株式会社巧コンサルティングを創業。中小企業へのコンサルティングおよび民間・行政機関でのセミナー・研修を行う。

